



2021年5月26日

各 位

会 社 名 株式会社アイ・ピー・エス
銘 柄 名 株式会社 I P S
代表者名 代表取締役 宮下 幸治
(コード番号：4390 東証第一部)
問合せ先 経営企画室室長 赤津 博康
(TEL. 03-3549-7719)

(訂正)「2021年3月期 決算説明会資料」の一部訂正について

2021年5月18日付で開示いたしました「2021年3月期 決算説明会資料」について、記載内容の一部訂正すべき事項が判明いたしましたので、下記のとおり訂正いたします。

なお、訂正箇所は下線にて表示しております。

記

1. 訂正の理由


2021年5月18日付で開示いたしました「2021年3月期 決算説明資料」の提出後、本日開示しております「(訂正・数値データ訂正)「2021年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について」に伴い、関係する箇所の訂正を行います。

2. 訂正の箇所

決算説明会資料の2ページ、6ページ、7ページ、8ページ、14ページ、16ページ、17ページに修正があり、以下のとおり訂正しております。

【訂正前】

1. Executive Summary



2021年3月期決算概要

売上高：9,515百万円 (前年同期比46.2%増)	営業利益：1,920百万円 (前年同期比79.4%増)	売上高営業利益率：20.2% (前年同期は16.4%)
-------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

2021年3月期の事業推移

1. 海外通信事業は海底ケーブルシステムC2C回線の提供により大幅増収増益。
2. フィリピン国内通信事業は、コロナウイルス感染症の影響により法人向けブロードバンド事業の新規開拓が低調に推移。C2C回線提供のフィリピンでの通信回線などの提供により営業利益が増加。
3. 国内通信事業は、コールセンター向けのサービスの拡大や通信トラフィックの増加を受け、増収減益。
4. 医療・美容事業は、コロナウイルス感染症により休業したことにより、減収減益。
5. 在留フィリピン人関連事業は、コロナウイルス感染症の影響により求人環境が激減。減収・損失。


ビジネス

1. フィリピン-香港、フィリピン-シンガポール間の海底ケーブルシステムC2Cの使用権を取得し、提供開始。フィリピンでの3番目の国際通信キャリアになる。
2. 日本・フィリピンともにコロナウイルス感染症の影響により在宅勤務などの増加により通信トラフィックが拡大。特にフィリピンでは、国際通信回線が逼迫する。
3. 在留フィリピン人関連事業では、人材関連事業を譲渡し、選択と集中を行う。

Copyright © 2021 IPS, Inc. All Rights Reserved.

【訂正後】

1. Executive Summary



2021年3月期決算概要

売上高：9,515百万円 (前年同期比46.2%増)	営業利益：1,921百万円 (前年同期比79.5%増)	売上高営業利益率：20.2% (前年同期は16.4%)
-------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

2021年3月期の事業推移


1. 海外通信事業は海底ケーブルシステムC2C回線の提供により大幅増収増益。
2. フィリピン国内通信事業は、コロナウイルス感染症の影響により法人向けブロードバンド事業の新規開拓が低調に推移。C2C回線提供のフィリピンでの通信回線などの提供により営業利益が増加。
3. 国内通信事業は、コールセンター向けのサービスの拡大や通信トラフィックの増加を受け、増収減益。
4. 医療・美容事業は、コロナウイルス感染症により休業したことにより、減収減益。
5. 在留フィリピン人関連事業は、コロナウイルス感染症の影響により求人環境が激減。減収・損失。

ビジネス

1. フィリピン-香港、フィリピン-シンガポール間の海底ケーブルシステムC2Cの使用権を取得し、提供開始。フィリピンでの3番目の国際通信キャリアになる。
2. 日本・フィリピンともにコロナウイルス感染症の影響により在宅勤務などの増加により通信トラフィックが拡大。特にフィリピンでは、国際通信回線が逼迫する。
3. 在留フィリピン人関連事業では、人材関連事業を譲渡し、選択と集中を行う。

Copyright © 2021 IPS, Inc. All Rights Reserved.

【訂正前】



(1) 決算ハイライト

【2021年3月期 連結実績】

(単位: 百万円)


	第4四半期 (1月~3月)			通期累計				
	2020年3月期	2021年3月期	前期比	2020年3月期	2021年3月期	前期比	通期予想	達成率
売上高	1,752	2,207	454 (+26.0%)	6,508	9,515	3,006 (+46.2%)	9,600	99.1%
営業利益	238	195	▲43 (▲18.1%)	1,070	1,920	849 (+79.4%)	1,900	101.1%
経常利益	241	615	374 (+155.2%)	1,075	2,186	1,111 (+103.3%)	1,700	128.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	117	197	79 (+67.6%)	645	1,303	658 (+102.0%)	1,150	113.3%

2021年3月期 実績分析

- 売上高: 海外通信事業においてC2C回線の提供により供給能力の向上により大幅に伸長。
国内通信事業においても在宅勤務やWeb会議の増加により好調に推移したことから、前年同期比46.2%増。
- 営業利益: 海外通信事業の利益が大幅に増加し、株式報酬費用203百万円を吸収し、前年同期比79.4%増。
- 経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益:
営業利益の増加に加え、第4四半期に円安となったことに伴い為替差益287百万円を計上したにより、それぞれ前年同期比103.3%増、102.0%増。

Copyright © 2021 IPS, Inc. All Rights Reserved.

【訂正後】



(1) 決算ハイライト

【2021年3月期 連結実績】

(単位: 百万円)

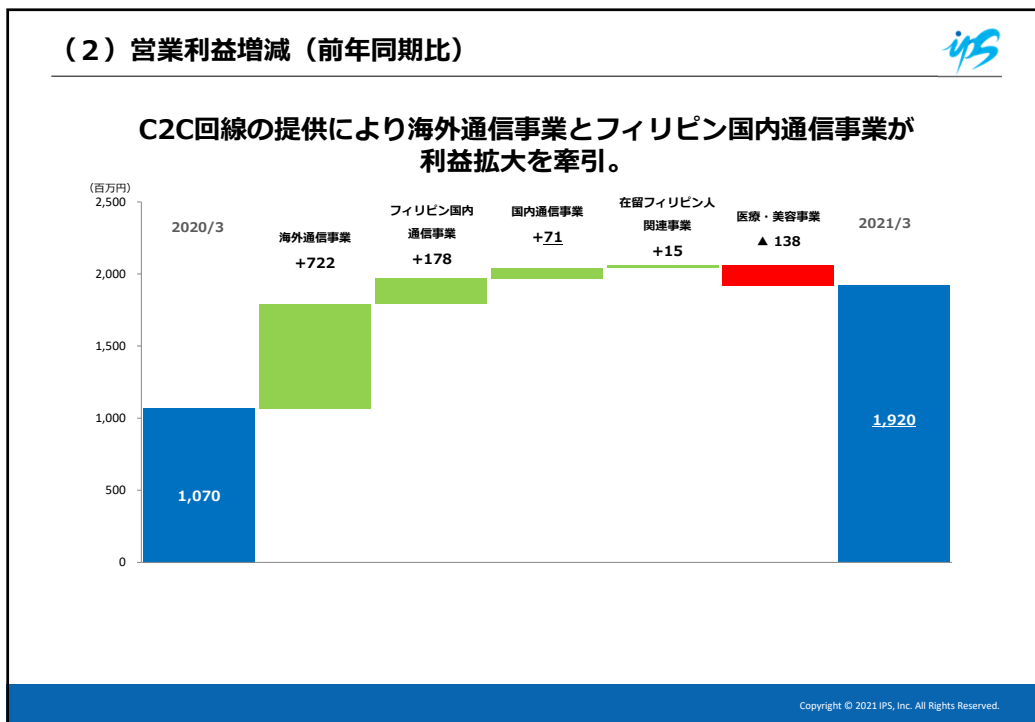
	第4四半期 (1月~3月)			通期累計				
	2020年3月期	2021年3月期	前期比	2020年3月期	2021年3月期	前期比	通期予想	達成率
売上高	1,752	2,207	454 (+26.0%)	6,508	9,515	3,006 (+46.2%)	9,600	99.1%
営業利益	238	195	▲42 (▲17.8%)	1,070	1,921	850 (+79.5%)	1,900	101.1%
経常利益	241	616	374 (+155.5%)	1,075	2,187	1,112 (+103.4%)	1,700	128.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	117	381	263 (+223.3%)	645	1,487	841 (+130.5%)	1,150	129.3%

2021年3月期 実績分析

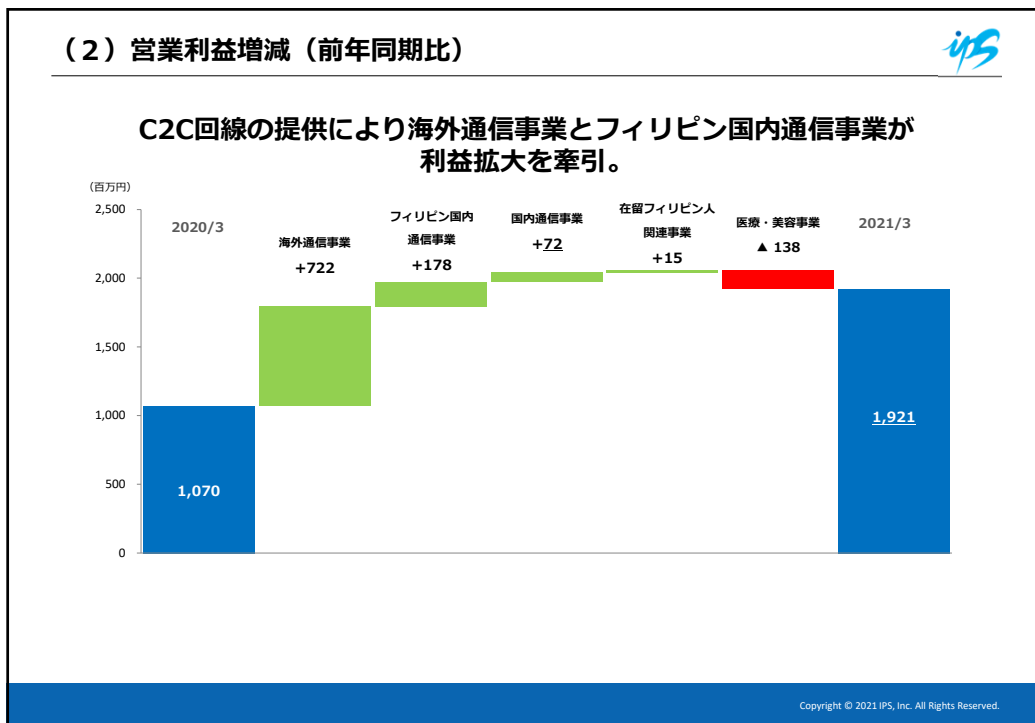
- 売上高: 海外通信事業においてC2C回線の提供により供給能力の向上により大幅に伸長。
国内通信事業においても在宅勤務やWeb会議の増加により好調に推移したことから、前年同期比46.2%増。
- 営業利益: 海外通信事業の利益が大幅に増加し、株式報酬費用203百万円を吸収し、前年同期比79.5%増。
- 経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益:
営業利益の増加に加え、第4四半期に円安となったことに伴い為替差益287百万円を計上したにより、それぞれ前年同期比103.4%増、130.5%増。

Copyright © 2021 IPS, Inc. All Rights Reserved.

【訂正前】



【訂正後】



【訂正前】

		(単位: 百万円)			
		2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	%
海外通信事業	売上高	1,271	4,259	2,987	234.9%
	営業利益	479	1,201	722	150.8%
フィリピン国内 通信事業	売上高	864	837	-27	-3.2%
	営業利益	73	251	178	243.6%
国内通信事業	売上高	3,303	3,718	414	12.6%
	営業利益	338	410	71	21.1%
医療・美容事業	売上高	872	623	-248	-28.5%
	営業利益	268	129	-138	-51.6%
在留フィリピン人 関連事業	売上高	196	77	-119	-60.8%
	営業利益	-89	-73	15	-17.8%
合計	売上高	6,508	9,515	3,006	46.2%
	営業利益	1,070	1,920	849	79.4%


Copyright © 2021 IPS, Inc. All Rights Reserved.

【訂正後】

		(単位: 百万円)			
		2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	%
海外通信事業	売上高	1,271	4,259	2,987	234.9%
	営業利益	479	1,201	722	150.8%
フィリピン国内 通信事業	売上高	864	837	-27	-3.2%
	営業利益	73	251	178	243.6%
国内通信事業	売上高	3,303	3,718	414	12.6%
	営業利益	338	410	72	21.2%
医療・美容事業	売上高	872	623	-248	-28.5%
	営業利益	268	129	-138	-51.6%
在留フィリピン人 関連事業	売上高	196	77	-119	-60.8%
	営業利益	-89	-73	15	-17.8%
合計	売上高	6,508	9,515	3,006	46.2%
	営業利益	1,070	1,921	850	79.5%

Copyright © 2021 IPS, Inc. All Rights Reserved.

【訂正前】



(4) 財務状態


連結貸借対照表 (サマリー)

(単位: 百万円)

	資産の部			負債・純資産の部			
	2020年3月期末	2021年3月期末	増減	2020年3月期末	2021年3月期末	増減	
流動資産	5,121	7,644	2,523	流動負債	2,445	3,376	931
現金及び預金	2,498	3,625	1,127	買掛金	419	701	282
売掛金	947	863	▲84	借入金	444	518	73
リース投資資産	1,163	2,534	1,370	その他	1,581	2,156	575
その他	510	620	109	固定負債	629	1,645	1,016
				長期借入金	449	1,431	981
				その他	179	214	34
固定資産	2,669	4,097	1,427	負債合計	3,074	5,022	1,947
有形固定資産	1,737	2,510	773	純資産	4,715	6,719	2,003
無形固定資産	173	829	656	株主資本	3,840	5,149	1,308
投資その他資産	758	756	▲1	累積包括利益	47	▲26	▲74
				新株予約権	7	210	203
				非支配株主持分	820	1,386	566
資産合計	7,790	11,741	3,951	負債・純資産合計	7,790	11,741	3,951

Copyright © 2021 IPS, Inc. All Rights Reserved.

【訂正後】



(4) 財務状態


連結貸借対照表 (サマリー)

(単位: 百万円)

	資産の部			負債・純資産の部			
	2020年3月期末	2021年3月期末	増減	2020年3月期末	2021年3月期末	増減	
流動資産	5,121	7,665	2,544	流動負債	2,445	3,361	916
現金及び預金	2,498	3,625	1,127	買掛金	419	701	282
売掛金	947	1,091	143	借入金	444	518	73
リース投資資産	1,163	2,327	1,163	その他	1,581	2,141	560
その他	510	620	109	固定負債	629	1,645	1,016
				長期借入金	449	1,431	981
				その他	179	214	34
固定資産	2,669	4,096	1,426	負債合計	3,074	5,007	1,932
有形固定資産	1,737	2,510	773	純資産	4,715	6,754	2,039
無形固定資産	173	829	656	株主資本	3,840	5,332	1,492
投資その他資産	758	755	▲1	累積包括利益	47	▲26	▲74
				新株予約権	7	210	203
				非支配株主持分	820	1,238	418
資産合計	7,790	11,762	3,971	負債・純資産合計	7,790	11,762	3,971

Copyright © 2021 IPS, Inc. All Rights Reserved.

【訂正前】



(1) 2022年3月期 業績予想

(単位：百万円)


	2021/3月期 通期実績	2022/3月期	
		通期予想	前年実績比
売上高	9,515	11,100	1,584 (+16.7%)
営業利益	1,920	2,400	479 (+25.0%)
経常利益	2,186	2,400	213 (+9.7%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,303	1,650	346 (+26.6%)

通期予想の概要

- 売上は111億円、営業利益は24億円を計画。
- 海外通信事業では、C2C回線の取得による供給能力の増加を活かし、積極的な提供を実施。
- フィリピン国内通信事業では、個人向け市場への展開を図るため、レジデンシャル向けインターネット接続サービスの提供を準備。
- 国内通信事業では、コールセンターソリューションの提供などを積極的に実施。
- 医療・美容事業では、感染防止策を徹底し、引き続きレーシックなどを提供。

Copyright © 2021 IPS, Inc. All Rights Reserved.

【訂正後】



(1) 2022年3月期 業績予想

(単位：百万円)


	2021/3月期 通期実績	2022/3月期	
		通期予想	前年実績比
売上高	9,515	11,100	1,584 (+16.7%)
営業利益	1,921	2,400	478 (+24.9%)
経常利益	2,187	2,400	212 (+9.7%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,487	1,650	162 (+11.0%)

通期予想の概要

- 売上は111億円、営業利益は24億円を計画。
- 海外通信事業では、C2C回線の取得による供給能力の増加を活かし、積極的な提供を実施。
- フィリピン国内通信事業では、個人向け市場への展開を図るため、レジデンシャル向けインターネット接続サービスの提供を準備。
- 国内通信事業では、コールセンターソリューションの提供などを積極的に実施。
- 医療・美容事業では、感染防止策を徹底し、引き続きレーシックなどを提供。

Copyright © 2021 IPS, Inc. All Rights Reserved.

【訂正前】




(2) 2022年3月期 セグメント別業績予想

(単位: 百万円)

セグメント	2021年3月期実績	2022年3月期予想	2022年3月期予想	
			前年比	増減率
売上高	9,515	11,100	1,584	16.7%
海外通信事業	4,259	4,050	-209	-4.9%
フィリピン国内通信事業	837	1,300	462	55.3%
国内通信事業	3,718	4,650	931	25.0%
医療・美容事業	623	1,050	426	68.4%
在留フィリピン人関連事業	77	50	-27	-35.1%
営業利益	1,920	2,400	479	25.0%
海外通信事業	1,201	1,250	48	4.0%
フィリピン国内通信事業	251	350	98	39.1%
国内通信事業	410	600	189	46.0%
医療・美容事業	129	200	70	54.0%
在留フィリピン人関連事業	-73	0	73	—
営業利益率	20.2%	21.6%	—	—
海外通信事業	28.2%	30.9%	—	—
フィリピン国内通信事業	30.1%	26.9%	—	—
国内通信事業	11.0%	12.9%	—	—
医療・美容事業	20.8%	19.0%	—	—
在留フィリピン人関連事業	-	-	—	—

Copyright © 2021 IPS, Inc. All Rights Reserved.

【訂正後】



(2) 2022年3月期 セグメント別業績予想

(単位: 百万円)

セグメント	2021年3月期実績	2022年3月期予想	2022年3月期予想	
			前年比	増減率
売上高	9,515	11,100	1,584	16.7%
海外通信事業	4,259	4,050	-209	-4.9%
フィリピン国内通信事業	837	1,300	462	55.3%
国内通信事業	3,718	4,650	931	25.0%
医療・美容事業	623	1,050	426	68.4%
在留フィリピン人関連事業	77	50	-27	-35.1%
営業利益	1,921	2,400	478	24.9%
海外通信事業	1,201	1,250	48	4.0%
フィリピン国内通信事業	251	350	98	39.1%
国内通信事業	410	600	189	46.0%
医療・美容事業	129	200	70	54.0%
在留フィリピン人関連事業	-73	0	73	—
営業利益率	20.2%	21.6%	—	—
海外通信事業	28.2%	30.9%	—	—
フィリピン国内通信事業	30.1%	26.9%	—	—
国内通信事業	11.0%	12.9%	—	—
医療・美容事業	20.8%	19.0%	—	—
在留フィリピン人関連事業	-	-	—	—

Copyright © 2021 IPS, Inc. All Rights Reserved.

以上



2021年3月期通期

決算説明会資料

2021年5月

株式会社アイ・ピー・エス

証券コード 4390

本資料は、2021年5月18日開催の決算説明会にて使用し、同日開示した資料に、5月26日に発表した決算数値の訂正を反映させたものです。

企業理念

OPEN DOOR

私たちは、いまだ誰も突破できていない障壁のある生活に密着した分野で、誰よりも先んじて事業機会を創造し、事業を展開し、産業構造を変え、あるべき社会を実現してまいります。



1 | Executive Summary

2 | 2021年3月期 決算概況

3 | 通期業績予想

4 | Topics

2021年3月期決算概要

売上高：9,515百万円 営業利益：1,921百万円 売上高営業利益率：20.2%
(前年同期比46.2%増) (前年同期比79.5%増) (前年同期は16.4%)

2021年3月期の事業推移

1. 海外通信事業は海底ケーブルシステムC2C回線の提供により大幅増収増益。
2. フィリピン国内通信事業は、コロナウイルス感染症の影響により法人向けブロードバンド事業の新規開拓が低調に推移。C2C回線提供のフィリピンでの通信回線などの提供により営業利益が増加。
3. 国内通信事業は、コールセンター向けのサービスの拡大や通信トラフィックの増加を受け、増収減益。
4. 医療・美容事業は、コロナウイルス感染症により休業したことにより、減収減益。
5. 在留フィリピン人関連事業は、コロナウイルス感染症の影響により求人環境が激減。減収・損失。

ビジネス

1. フィリピン-香港、フィリピン-シンガポール間の海底ケーブルシステムC2Cの使用権を取得し、提供開始。フィリピンでの3番目の国際通信キャリアになる。
2. 日本・フィリピンともにコロナウイルス感染症の影響により在宅勤務などの増加により通信トラフィックが拡大。特にフィリピンでは、国際通信回線が逼迫する。
3. 在留フィリピン人関連事業では、人材関連事業を譲渡し、選択と集中を行う。

2 | 2021年3月期 決算概要

【2021年3月期 連結実績】

(単位：百万円)

	第4四半期（1月～3月）			通期累計				
	2020年3月期	2021年3月期	前期比	2020年3月期	2021年3月期	前期比	通期予想	達成率
売上高	1,752	2,207	454 (+26.0%)	6,508	9,515	3,006 (+46.2%)	9,600	99.1%
営業利益	238	195	▲42 (▲17.8%)	1,070	1,921	850 (+79.5%)	1,900	101.1%
経常利益	241	616	374 (+155.5%)	1,075	2,187	1,112 (+103.4%)	1,700	128.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	117	381	263 (+223.3%)	645	1,487	841 (+130.5%)	1,150	129.3%

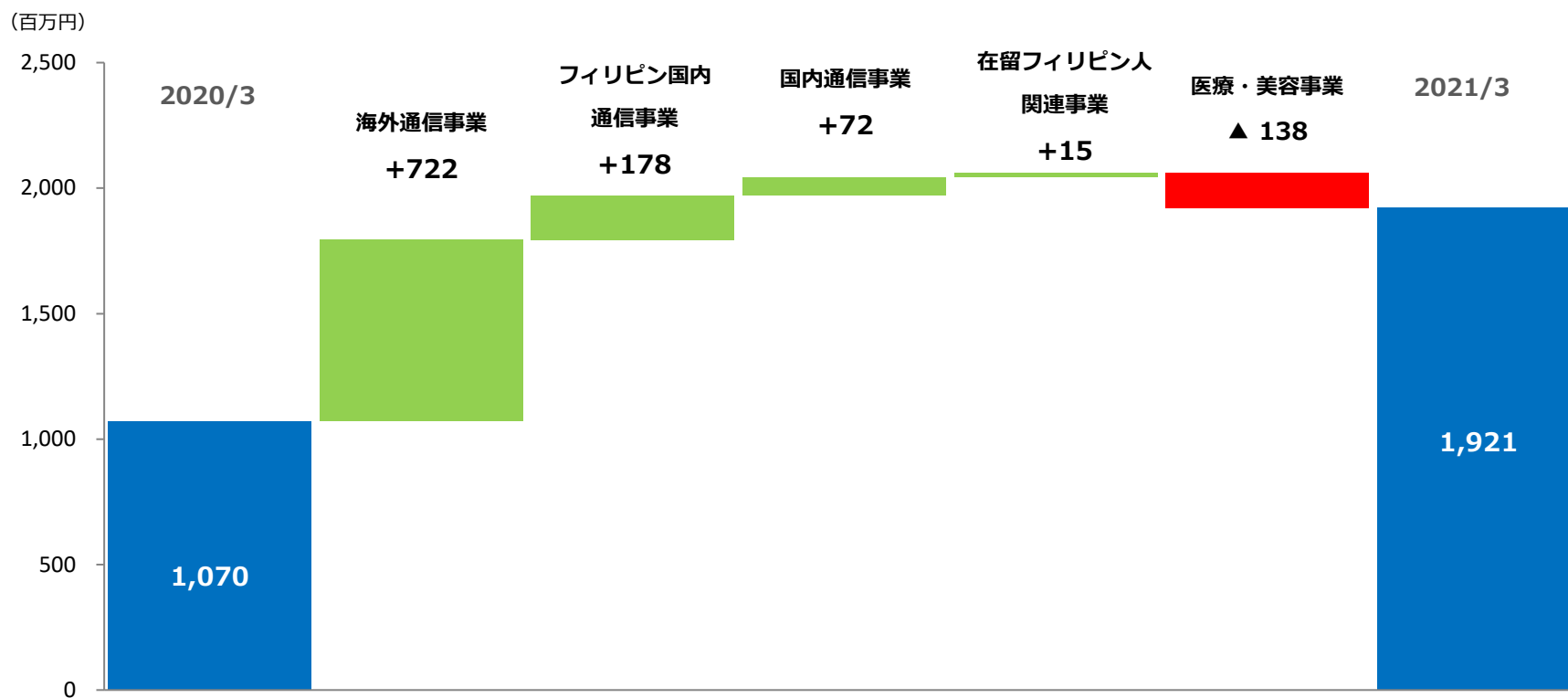
2021年3月期 実績分析

- **売上高**：海外通信事業においてC2C回線の提供により供給能力の向上により大幅に伸長。
国内通信事業においても在宅勤務やWeb会議の増加により好調に推移したことから、
前年同期比46.2%増。
- **営業利益**：海外通信事業の利益が大幅に増加し、株式報酬費用203百万円を吸収し、前年同期比79.5%増。
- **経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益**：
営業利益の増加に加え、第4四半期に円安となったことに伴い為替差益287百万円を計上したにより、それぞれ前年同期比103.3%増、130.5%増。

(2) 営業利益増減（前年同期比）



C2C回線の提供により海外通信事業とフィリピン国内通信事業が利益拡大を牽引。

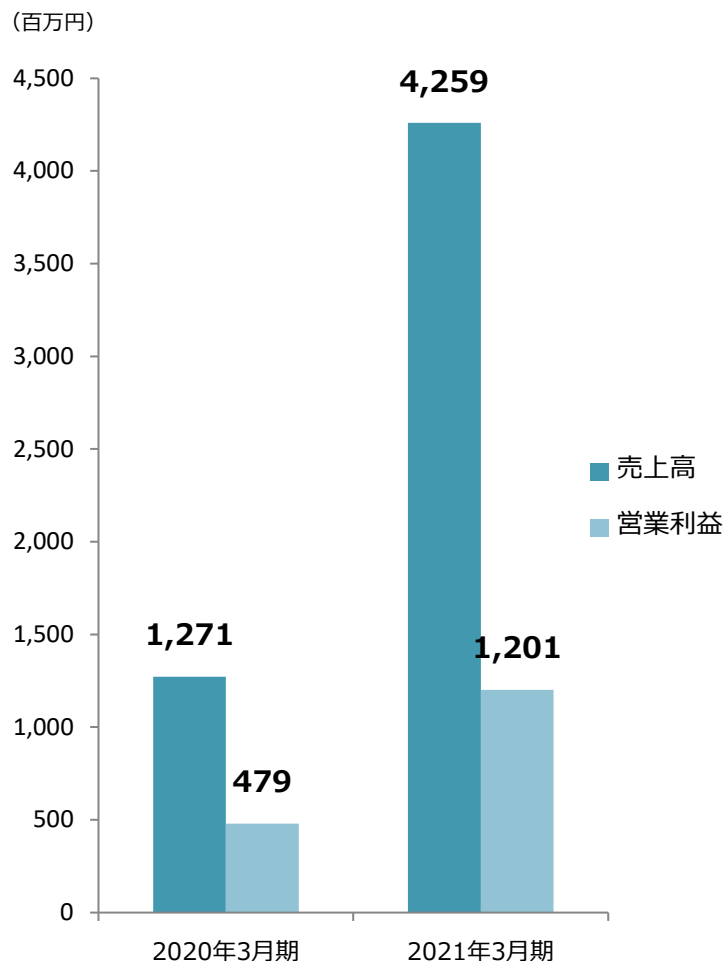


(3) 事業セグメント別経営成績



(単位：百万円)

		2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	%
海外通信事業	売上高	1,271	4,259	2,987	234.9%
	営業利益	479	1,201	722	150.8%
フィリピン国内通信事業	売上高	864	837	-27	-3.2%
	営業利益	73	251	178	243.6%
国内通信事業	売上高	3,303	3,718	414	12.6%
	営業利益	338	410	72	21.2%
医療・美容事業	売上高	872	623	-248	-28.5%
	営業利益	268	129	-138	-51.6%
在留フィリピン人関連事業	売上高	196	77	-119	-60.8%
	営業利益	-89	-73	15	-17.8%
合計	売上高	6,508	9,515	3,006	46.2%
	営業利益	1,070	1,921	850	79.5%



C2C回線取得・提供による事業の拡大

(1) フィリピンにおける3番目の国際通信

キャリア

マニラ-香港、マニラ-シンガポールを結ぶ海底ケーブルシステムC2C回線をIRUにより使用権を取得。

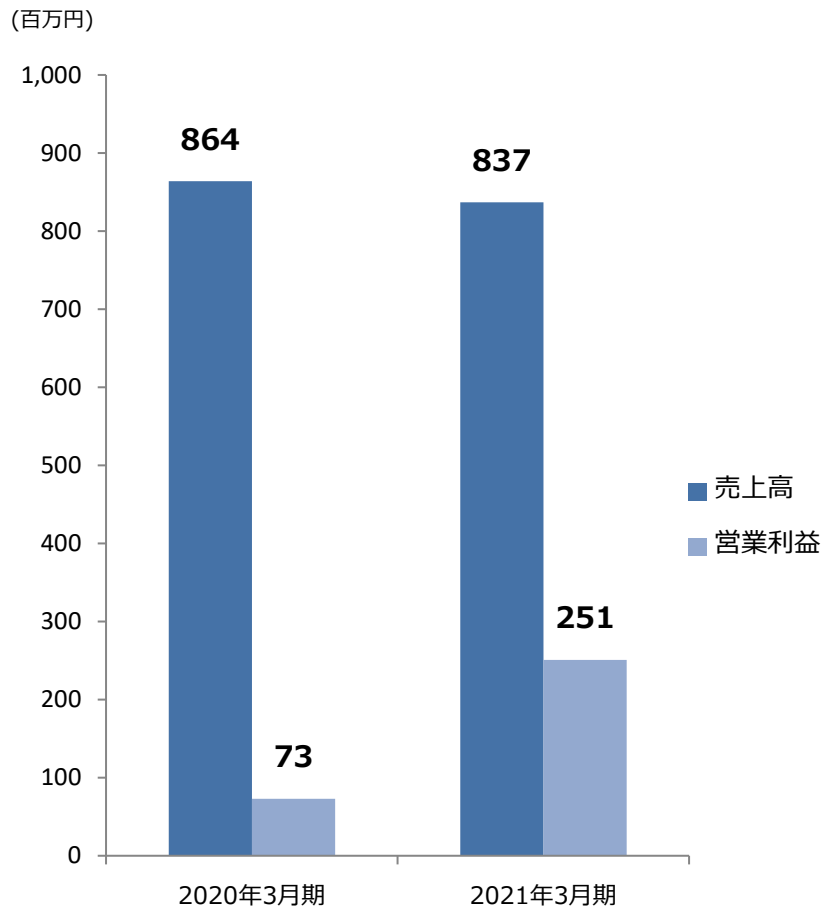
2020年10月よりCATV事業者や通信事業者に提供開始。

(2) 国際通信回線提供能力の飛躍的な拡大

フィリピンにおける旺盛な国際回線需要に対応し、事業内容が拡大

⇒Carrier's Carrierとしての事業展開

シンガポールに子会社 (ISMO Pte. Ltd.) を設立



マニラ首都圏法人向けインターネット接続サービスの新規開拓が低調

コロナウイルス感染症の影響により外出制限などの実施により新規開拓が低調に推移。

外出制限により通勤の減少、在宅勤務により個人市場の拡大の対応し、レジデンシャル向けサービスの提供を準備。

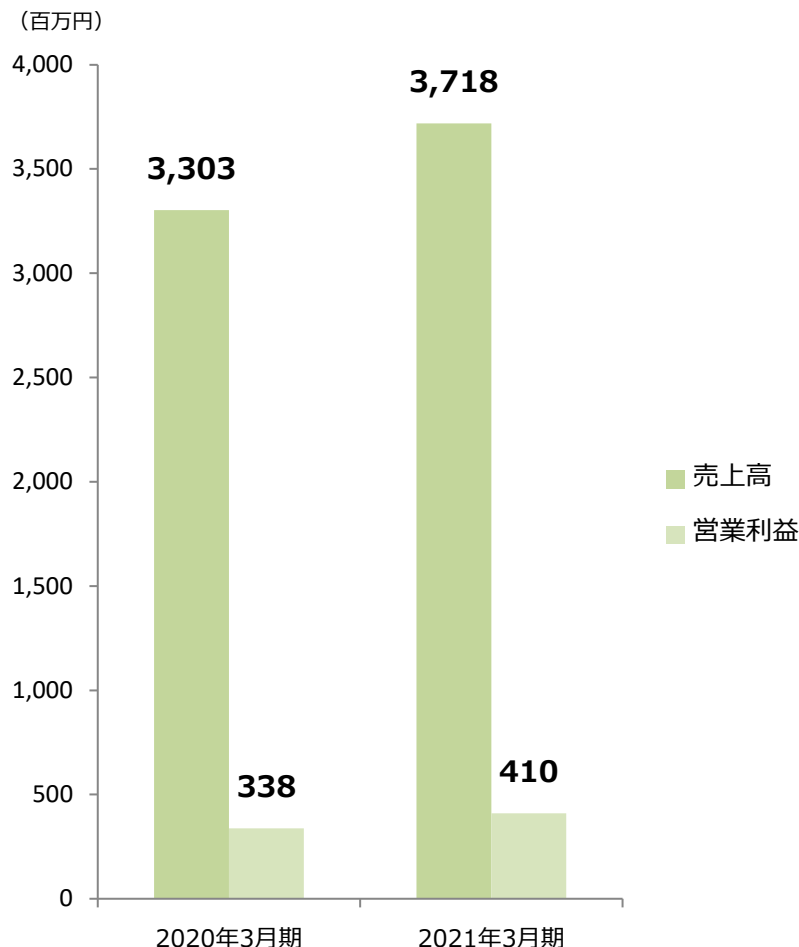
フィリピン国内の通信網の整備

C2C回線提供に必要なフィリピン側での通信回線等を用意。

マニラ首都圏やミンダナオ島での光ファイバー回線の敷設を実施。

1.5GHz帯の周波数帯の割当

2021年3月、5G専用の周波数帯（3.7GHz帯と24GHz帯）に加え、1.5GHz帯の割当を受ける。



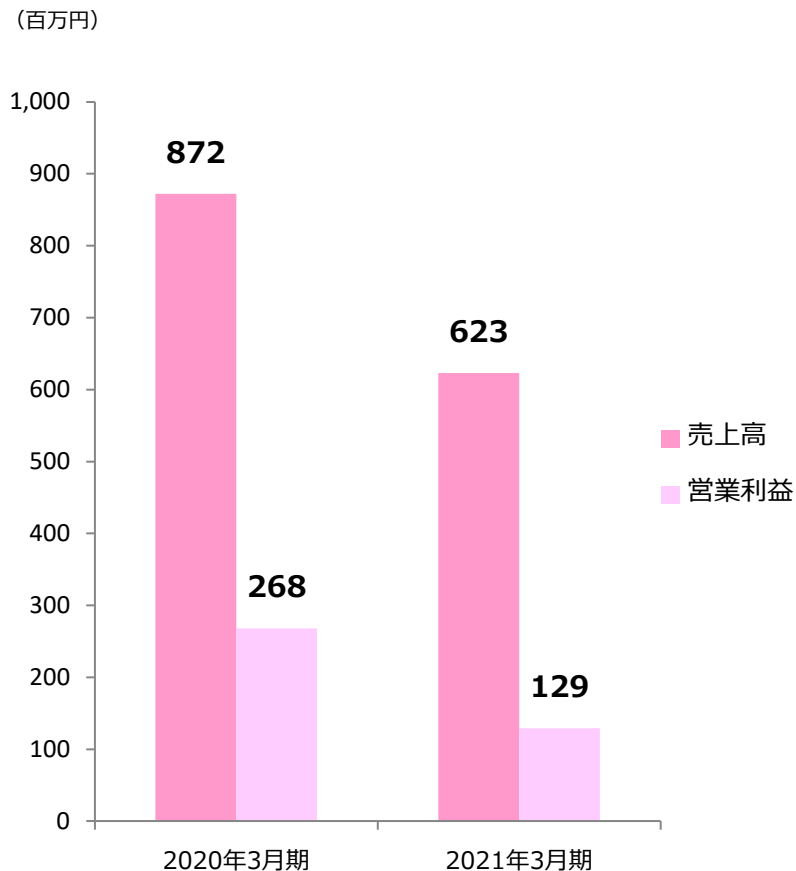
コールセンターソリューション等が好調

コールセンターシステムAmeyoJと秒課金サービスを合わせたコールセンターソリューションの売上が好調に推移。

コロナウイルス感染症により通信トラフィックが増加

在宅勤務やWeb会議の拡大などにより、通信トラフィックが増加。

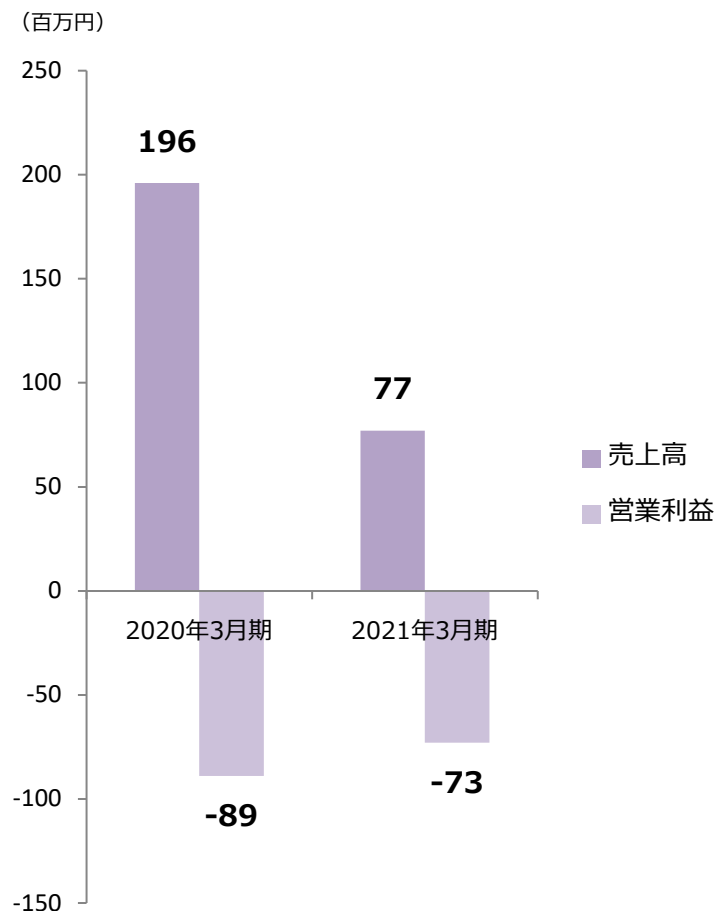
(注) セグメントの営業利益については、新株予約権に関する株式報酬費用125百万円を計上。
 ※株式報酬費用控除後の営業利益は58.2%の増加



2020年3月、ボニファシオグローバルシティに眼科に特化した第3 医院を開設

コロナウイルス感染症の影響を受け、減収減益

コロナウイルス感染症の蔓延により昨年3月中旬から5月中旬まで一時閉院。感染防止策を徹底し、再開。



コロナウイルス感染症の影響により求人環境が激減

コロナウイルス感染症の影響により、飲食・清掃などの求人が激減。介護向けの人材紹介・派遣を推進するも、採用数が減少。

2021年1月をもって、株式会社グローバルトラストネットワークスに人材関連事業を譲渡し、撤退。

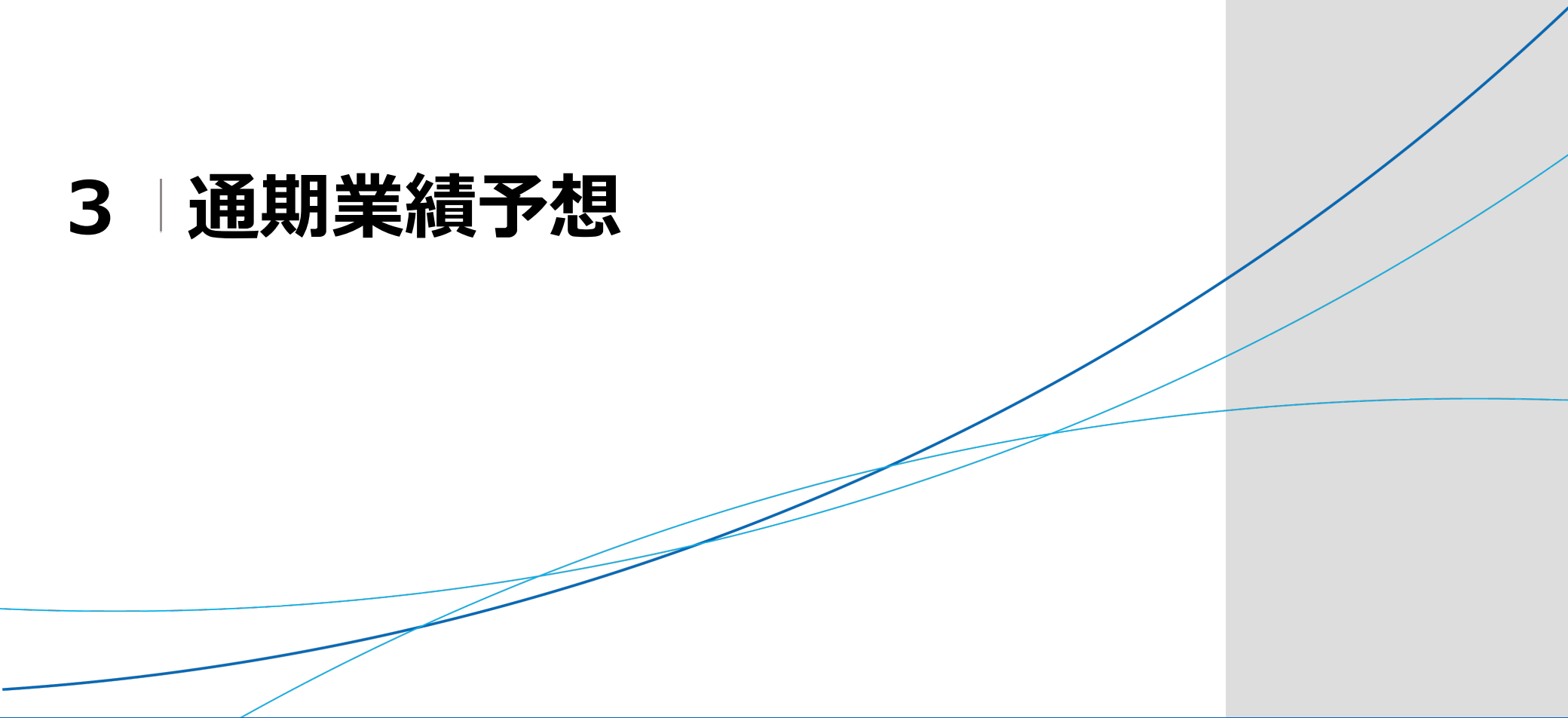
今後は、送金斡旋などのサービスを在留フィリピン人の方に提供。

連結貸借対照表 (サマリー)

(単位：百万円)

資産の部				負債・純資産の部			
	2020年3月期末	2021年3月期末	増減		2020年3月期末	2021年3月期末	増減
流動資産	5,121	7,665	2,544	流動負債	2,445	3,361	916
現金及び預金	2,498	3,625	1,127	買掛金	419	701	282
売掛金	947	1,091	143	借入金	444	518	73
リース投資資産	1,163	2,327	1,163	その他	1,581	2,141	560
その他	510	620	109	固定負債	629	1,645	1,016
				長期借入金	449	1,431	981
				その他	179	214	34
固定資産	2,669	4,096	1,426	負債合計	3,074	5,007	1,932
有形固定資産	1,737	2,510	773	純資産	4,715	6,754	2,039
無形固定資産	173	829	656	株主資本	3,840	5,332	1,492
投資その他資産	758	755	▲2	累積包括利益	47	▲26	▲74
				新株予約権	7	210	203
				非支配株主持分	820	1,238	418
資産合計	7,790	11,762	3,971	負債・純資産合計	7,790	11,762	3,971

3 | 通期業績予想



(1) 2022年3月期 業績予想



(単位：百万円)

	2021/3月期 通期実績	2022/3月期	
		通期予想	前年実績比
売上高	9,515	11,100	1,584 (+16.7%)
営業利益	1,921	2,400	478 (+24.9%)
経常利益	2,187	2,400	212 (+9.7%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,487	1,650	162 (+11.0%)

通期予想の概要

- 売上は111億円、営業利益は24億円を計画。
- 海外通信事業では、C2C回線の取得による供給能力の増加を活かし、積極的な提供を実施。
- フィリピン国内通信事業では、個人向け市場への展開を図るため、レジデンシャル向けインターネット接続サービスの提供を準備。
- 国内通信事業では、コールセンターソリューションの提供などを積極的に実施。
- 医療・美容事業では、感染防止策を徹底し、引き続きレーシックなどを提供。

(2) 2022年3月期 セグメント別業績予想



(単位：百万円)

セグメント	2021年3月期実績	2022年3月期予想	前年比	増減率
売上高	9,515	11,100	1,584	16.7%
海外通信事業	4,259	4,050	-209	-4.9%
フィリピン国内通信事業	837	1,300	462	55.3%
国内通信事業	3,718	4,650	931	25.0%
医療・美容事業	623	1,050	426	68.4%
在留フィリピン人関連事業	77	50	-27	-35.1%
営業利益	1,921	2,400	478	24.9%
海外通信事業	1,201	1,250	48	4.0%
フィリピン国内通信事業	251	350	98	39.1%
国内通信事業	410	600	189	46.0%
医療・美容事業	129	200	70	54.0%
在留フィリピン人関連事業	-73	0	73	—
営業利益率	20.2%	21.6%	—	—
海外通信事業	28.2%	30.9%	—	—
フィリピン国内通信事業	30.1%	26.9%	—	—
国内通信事業	11.0%	12.9%	—	—
医療・美容事業	20.8%	19.0%	—	—
在留フィリピン人関連事業	-	-	—	—

■ 海外通信事業

フィリピンでは、コロナウイルス感染症の影響により、国際通信回線が逼迫しており、フィリピンと香港を最短で結ぶC2C回線への引き合いは非常に強い状況です。C2C回線の提供の拡大による事業の拡大を図ってまいります。

コロナウイルス感染症の影響により工事が遅れていたミンダナオ島などでの光ファイバー敷設作業についても、リングの完成に目途。今期中にミンダナオ島などのCATV事業者や通信事業者への通信回線の提供開始。

■ フィリピン通信国内事業

法人向けブロードバンドサービスの売上は、安定的に伸長し、ストックビジネスとして収益が積みあがることを想定しているが、コロナウイルス感染症の影響で営業活動が制限されており、また、事務所への出勤者数に制限があるなど、厳しい環境のなか、新規獲得を図っていく計画です。また、個人向け市場が大きく伸びているため、レジデンシャル向けのサービスの提供の準備を進めております。

また、DX（デジタルトランスフォーメーション）の実現には5Gの同時接続が必要になるなど今後も通信市場の整備はなされていくことが想定されているので、回線の敷設やさまざまな実証実験などを進めていく方針です。

■ 国内通信事業

コールセンター向けのサービスは、引き続き需要が旺盛であり、今期も堅調に推移するものと計画しております。

コロナウイルス感染症によるテレワークの増加により、通信・通話トラフィックが増加している状況にあります。

■ 医療・美容事業

コロナウイルス感染症による移動制限の影響一番を受けるものの、感染防止の徹底を図り、レーザー手術などを提供していく。

■ 在留フィリピン人関連事業

人材関連事業を譲渡し撤退したため、送金サービスなどの利用促進などのサービスをフィリピンのコールセンターより在留フィリピン人などに提供。

4 | 2021年3月期 Topics

2020年5月に、オーストラリア最大手通信事業者の海外部門子会社との間で、フィリピンと香港・マニラを結ぶ海底ケーブル（C2C）の一部の使用権を取得し、10月から提供を開始いたしました。

これまで、海底ケーブルの権利を保有し運用するのは、大手通信事業者2社のみ。これにより、フィリピンでの3番目の国際通信キャリアになりました。

現在、フィリピンではコロナウイルス感染症による外出制限があり、在宅勤務などの増加により通信回線が逼迫しており、CATV事業者などへの提供が順調に増加しております。



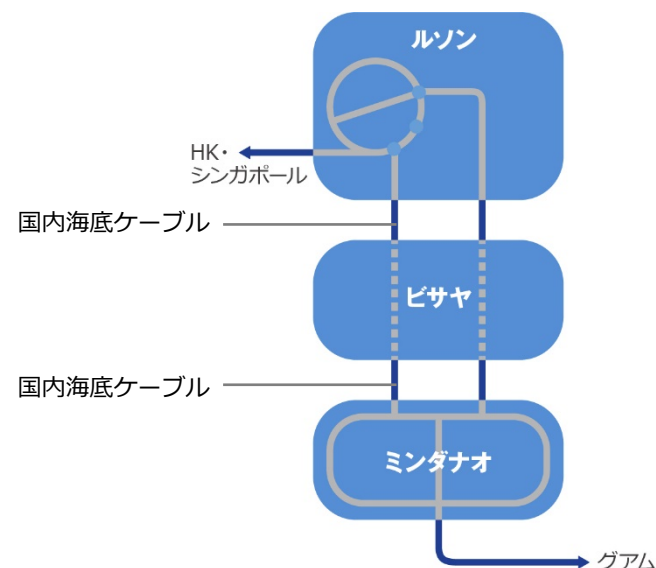
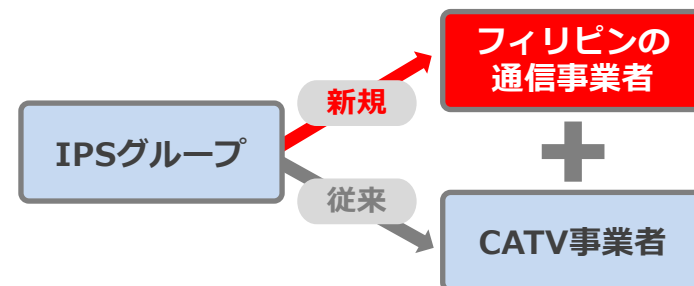
C2Cの提供によりキャリアズキャリアのポジションを確立

- これまで排他的だったフィリピン国内の通信事業者が、将来の海底ケーブルをJapan品質で共同構築していくという、当社グループの提案に賛同
- C2C回線においては、従来からのCATV事業者向けに加えて、フィリピンの通信事業者へ提供
- キャリアズキャリア販売では回線の取得や建設にかかる投資資金の早期回収が可能

今後の計画

- 現在、フィリピンの通信事業者2社と共同で、ルソン島、ビサヤ諸島、ミンダナオ島を結ぶフィリピン国内海底ケーブルシステムの建設に必要な海洋調査を実施中
- その後は、回線の通信事業者への販売と自社利用を計画
- 将来の案件拡大により、フィリピンに必要な海底ケーブルなどの主要インフラの構築促進を目指す

キャリアズキャリアへ (通信事業者のための卸売事業者)



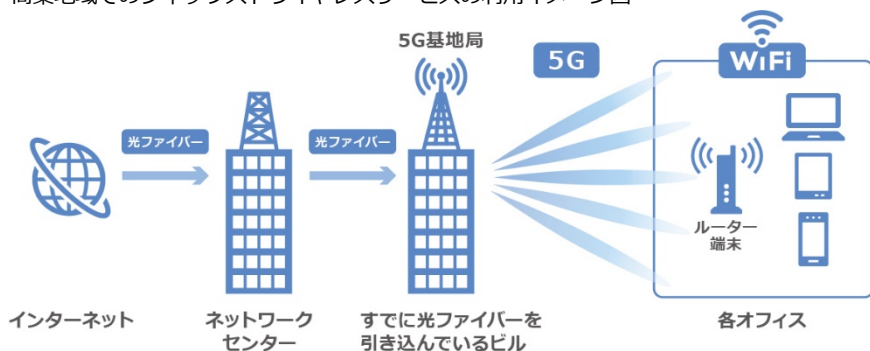
2021年2月、当社子会社のInfiniVANが、フィリピン共和国国家通信委員会（NTC）から、4Gの主要な携帯電話が対応している1.5GHzの周波数帯の割当を受ける。

※5G専用の周波数帯である3.7GHzと24GHzを前年に割当済。

1.5GHzは、相対的に波長が長く電波が届きやすい特性があり、既に4Gの主要な携帯電話が対応し、技術的に成熟。

従来の4G技術と新規の5G技術の併用も視野に入れつつ、マニラ首都圏の商業地域で、5G無線ブロードバンドサービスの提供を目指し、上期中の実証実験の完了を進める。

商業地域でのフィクストワイヤレスサービスの利用イメージ図



当社の国内通信事業では、コールセンター運営統合プラットフォームであるAmeyoJと、秒課金フリーダイヤルサービスの提供が拡大。

【AmeyoJの特徴】

- BPO集積地（インドやフィリピン）での導入実績がベース
- 外部システムと連携するAPIが圧倒的に多く、実導入の知見や対応力も豊富に蓄積

【今後も、包括的ソリューションの提供が伸長する計画】

- 顧客管理とコールセンターのシステム一元構築
- 従来型交換機のクラウド切り替え
- 自動架電、チャット連携、AI対応 他
- これらに、秒課金フリーダイヤルサービスとを組み合わせる。



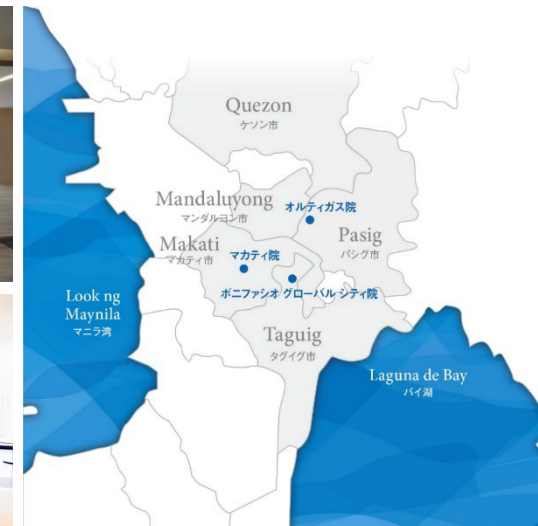
当社子会社のShinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporationでは、2020年3月にBonifacio Global Cityに眼科に特化した医院を開院。

前期は新型コロナウイルスの影響で厳しい業績だったが、顧客のサービス評価は高く需要は堅調だと認識。2022年3月期はセグメント営業利益2億円が目標。

日本の画像診断を使った予防医療としての人間ドックセンターの開設を現在調査中。出来るだけ安価にし、多くのフィリピン人の方々が利用できるセンターを想定。



Bonifacio Global City院



会社名
(英文社名)

株式会社アイ・ピー・エス
IPS, Inc.

設 立

1991年10月

本社所在地

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル8階

事業内容

海外通信事業：フィリピンのCATV事業者等に国際通信回線を提供

フィリピン国内通信事業：フィリピン国内での法人向けISPの提供

国内通信事業：日本国内での通信サービスの提供

医療・美容事業：フィリピンでの医療・美容サービスの提供

グループ企業

主な連結子会社

KEYSQUARE INC.

Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation

InfiniVAN, Inc.

ISMO Pte. Ltd. (IPS Telecommunication Singapore Pte. Ltd.から社名変更)

- ▶ 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- ▶ 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- ▶ 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ▶ 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

《IRに関するお問い合わせ先》

株式会社 アイ・ピー・エス
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1
東劇ビル8階

TEL: 03-3549-7719 FAX: 03-3545-7331

ips